

第4回寄附講義「会社研究」

令和2年6月3日 13時10分

講師 株式会社地域科学研究所

代表取締役社長 平井慎一氏

テーマ 行政データ×AI×まちづくり

今回もオンライン講義で、講師は(株)地域科学研究所から講義されました。平井社長は経済学部41回卒業生、大学院の第32回修了生でもあります。

前半では平井社長が地域科学研究所の業務について説明されました。県・市町村等の地方自治体の仕事をBIGデータやAIを活用してサポートするのが中心で、公共施設の適正配置、移住・定住促進、交流人口の増加、まちづくりなど幅広い領域で計画づくりに関わっています。B2BでもB2Cでもなく、B2G（ビジネス to ガバメント）が特徴。社内にはまちづくりディレクター、AIエンジニア、データサイエンティストなどの職種があります。ただし社員の半数は文系の卒業生。対象自治体は西日本の18県に及びます。

“社員の幸せ第一”主義は徹底しており、お客様より社員を優先する経営理念を顧客にも理解してもらっているとのこと。社員の研修制度、福利厚生制度も充実しています。



後半では、大分大学経済学部を4年前に卒業して、まちづくりディレクター、システムディレクターとして活躍する社員の黒木瞳さんが、社長の隣から、年齢の近い先輩として学生に語り掛けました。

大呂興平教授の指導で地域に飛び込んでフィールドワークに頑張った学生時代の体験、会社で担当する業務、1日・1週間の仕事の流れなどを生き生きと説明して、ディスプレイの前で聞いている受講生を惹きつけました。

講義中、オンラインを通して学生から多数の質問が寄せられ、それを司会の渡邊博子教授が仲介して、講師を囲む活発な座談会のような雰囲気も醸し出していました。